

令和7年度3学期修了式式辞

小話を一つ。冬、新しい車を買った人が、神社にお祓いに行ったその帰り、鳥居に積もって凍った雪が新車に落ちてきて、光り輝いていたボンネットがべっこりへこみ傷がついたそうです。今お祓いしたばかりで、しかも神社の鳥居からの落雪というのが許せず「お祓い、なんもきかねえべな、金返せ」と、神主に文句を言いに行ったそうです。そうしたら神主が、「いや、あなた、お祓いしてなかったらもっと大変な事故に遭っていましたよ」と言ってきた、という話。

まあ、新車大損傷の状況下で、車の持ち主が納得したかは怪しいところですが、ある出来事、それもマイナスの出来事でも、視点を変えることでプラスに転換できるというのが今日これからの話。

たとえば、「失敗」は、「うまくいかない方法が一つ分かった」「データが増えた」「経験を積んだ」と考える。

また「できない」は、「これから伸びる余地がある」「今まさに成長の途中」と考える。

これは思考の技術、テクニックの一つなのです。へこたれない人、あきらめない人、ポジティブな人がいますが、みんなこの技術を使っています。発想の転換ができる人は、失敗したからもうやらないとならず、再びチャレンジします。チャレンジしている打ちに、どこかのタイミングで大なり小なり上手くいく場面が訪れる。この上手くいく場面に出会うというのが重要です。人は上手くいったときにコツをつかみ、さらに上を目指す気持ちも湧いてくるのです。

さて、今、大変な状況の中にいる人はいませんか。つらい人はいませんか。あなたは今まさに、そのつらく大変な状況の中で、実は成長しています。のほほんと過ごしている人には絶対に得られない経験の中で、成長しているのです。必ずあなたにはそのトンネルを抜ける時がやってきて、自分の成長に驚くはずです。もう一度言います。発想を転換させてください。つらく大変な状況は、あなたを大きく成長させています。

さて、学校の1年が今日で終わります。いや、発想の転換、今日は新たなスタートの日です。2年生の皆さん、後輩が入ってきますよ。3年生の皆さん、あなたたちがずっと見ていた最高年次の背中を、今度はあなたたちが見せる番ですよ。発想の転換という技術を自分のものにして、新しい1年をポジティブに切り開いていってください。

令和8年3月26日
校長 伊藤文一